
遊 戯 王 決闘戦記315

銀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊 戯 王 決闘戦記315

【Nコード】

N5503BA

【作者名】

銀

【あらすじ】

西暦201X年 世界は核戦争で滅んでいるという訳もなく、平和だった。

この世界では「デュエルモンスターズ」が大流行しており、趣味、もめ事なんかの解決等で決闘デュエルをする。

今や世界人口の約半数がデュエリスト。

この物語は、そんな世界を生きる少年少女達の恋愛と友情、そして戦いの記録である。

遊戯王の二次創作です。原作と一切関係無いオリジナルです。
カード情報は遊戯王wikiを参照しました。

第1話「その男、リチュア使い」

西暦201X年 世界は核戦争で滅んでいるという訳もなく、
平和だった。

この世界では「デュエルモンスターズ」が大流行しており、趣味、
もめ事なんかの解決等で決闘デュエルをする。
今や世界人口の約半数がデュエリスト。
この物語は、そんな世界を生きる少年少女達の恋愛と友情、そして
戦いの記録である。

遊 戯 王 決闘戦記315

第1話「その男、リチュア使い」

とある学園の教室。

今は休み時間で、生徒達が他愛の無い話で盛り上がっている。

「ふああ〜……」

そんな中、欠伸をかく少年が1人いた。
ライトグレーの髪に、紫色の瞳。

名を三原才雅さいのみという。

彼の見た目は何処にでもいそうな少年だが、この学園では少しは名

が知れた方であつた。

というのも、生徒達の頼みを聞き、それに見合つた報酬を食べ物で要求する、何でも屋のような事をしていたからだ。

「暇だ〜」

少ししかない休み時間。

カバンの中に入っていたパンも食べ尽くし、やる事の無い彼は机に頭を乗せていた。

「才雅君、はい」

そんな才雅にお菓子を差し出す手が1つ。

水色の綺麗な長髪と、同じ色の瞳を持つ女子。

彼女は上城江里香かみじょうえりか。才雅の恋人だ。

「10円チョコ1つかよ〜」

「今日はそれで我慢してっ」

渋々チョコを受け取り頬張る。

授業は残り1時間。才雅は寝る事を決めた。

下校時間。

才雅の頭には教師に作られたたんこぶが目立っていた。

「つてて……本気で殴りやがって」

「才雅君が悪いんだよ〜」

悪態を吐く才雅を江里香が宥める。

「そっぴや今日の依頼は……」

才雅はパラパラとメモをめくる。

中身は日にち、報酬、内容が細かく書いてあった。

「何々……「レアカード狩り」の調査か」

昼休み、隣のクラスの少年に依頼された事である。

因みに報酬はメロンパン2つ。

「今噂になつてる奴？」

「ああ。ソイツも狩られたんだとさ」

依頼主の話では、昆虫族デッキを使うそうだ。

才雅はまず近くの公園に行く事にした。

公園では、老若男女問わず至る所でデュエルが行われていた。

世界人口の半分はデュエリスト。

当然といえば当然である。

しかし、昆虫族デッキを使う者は多い。

決定的な証拠を教えてもらっていない才雅は、暫く思考していた。

「どっしり……」

不安そうにする江里香を優しく撫でる才雅。

「大丈夫さ。レアカード狩りなんてやってたら普通騒ぎが」

「返してくれよ！」

と、話している途中で、才雅の予想通り騒ぎが起こった。

「フツ、この程度のカードでガタガタ言っつな」

どうやら既に狩られた様子だ。

黒髪で赤い瞳の少年がレアカードを抜かれたデッキを捨てた。

「俺のガイアナイト返してくれよ！」

『何とも微妙な……』

才雅は心の中で呟いた。

しかし見てるだけでは意味が無い。

「チツ、コイツでもな」

「オイ、待てよ」

立ち去ろうとする少年の肩を掴む。

「何だ？僕は正当なアンティルールでレアカードを貰ったに過ぎない」

「生憎こっちも仕事でな」

睨み合う2人を、江里香がオロオロと見つめる。

「敢えて言っておく。デュエルしろよ」

「アンティルールならね。僕はこの」

「テメーのカードなんざいらねえ。今まで奪ったカード全部出しな」

「断る。君のレアカード1枚じゃ釣り合わない」

少年は踵を返そうとしたが、才雅の肩を掴む力が強くて抜け出せない。

「離せよ」

「じゃあ俺のデッキ全部でどうだ？」

「才雅君!？」

デュエリストにとってデッキは命。

それを全て賭けるとはどういう事か才雅は知っていた。

「……いいだろう。奪ったデッキを目の前で燃やしてやる!」

デュエルディスクを起動させると、やっと才雅は手を離す。これで互いに逃げられない。

「才雅君……」

「心配すんな。俺は負けねえよ」

才雅は江里香に余裕そうな笑みを見せ、少年に向き合った。

「俺は三原才雅だ。お前は？」

「……するがしゅん駿河潤」

少年、潤は静かに呟く。

「へえ、潤。敢えて言うておく……」

才雅は敵意を含んだ笑みで潤を指差した。

「ゲーム開始だ！」

三原才雅

LP：8000 手札：5

駿河潤

LP：8000 手札：5

「俺の先攻！ドロー！」

才雅はデュエルディスクにセットされたデッキからカードを引く。手札は現在6枚。才雅は手札を一瞥し、すぐに行動した。

「モンスターをセット！更にカードをセットしてターンエンド！」

三原才雅

LP：8000 手札：4

駿河潤

LP：8000 手札：5

「僕のターン！ドロー！」

続いて潤がドロー。

手札を見て、小さく笑いながらカードをディスクにセットする。

「僕はフィールド魔法「スパイダー・ウェブ」を発動！」

《スパイダー・ウェブ / Spider Web》
フィールド魔法

モンスターが攻撃宣言をした場合、そのモンスターはダメージステップ終了時に守備表示になり、そのモンスターのコントロールから見て次の自分のターンのエンドフェイズ時まで表示形式を変更する事ができない。

ソリッドビジョンにより、周囲に巨大な蜘蛛の糸が張られる。

「うええ……」

江里香が生理的嫌悪感で顔を歪ませる。
虫が苦手な人にとっては嫌な光景であろう。

「モンスターとカードをセットしてターンエンドだ」

三原才雅

LP：8000 手札：4

駿河潤

LP：8000 手札：3

「俺のターン！ドロー！気持ち悪いモン仕掛けやがって……何企んでるか知らないが、攻めさせて貰うぜ！」

才雅は伏せてあったモンスターカードをひっくり返した。

「「リチュア・エアリアル」を反転召喚！」

《リチュア・エアリアル》

効果モンスター

星4 / 水属性 / 魔法使い族 / 攻1000 / 守1800

リバーズ：自分のデッキから

「リチュア」と名のついたモンスター1体を手札に加える事ができる。

表になったカードから出現したのは魔法使いの少女だ。青い髪等、何所か江里香に似ている。

「リバーズ効果発動！「イビリチュア・ソウルオーガ」を手札に加えるぜ！」

デッキから儀式モンスターを抜き、ディスクに再びセットすると、デッキは自動でシャッフルされる。

「サーチ効果か……」

続いて才雅は手札からカードを1枚取り、フィールドに出す。

「手札から「リチュア・チェイン」を召喚！」

《リチュア・チェイン / G i s h k i C h a i n》

効果モンスター

星4 / 水属性 / 海竜族 / 攻1800 / 守1000

このカードが召喚に成功した時、自分のデッキの上からカードを3枚確認する。

確認したカードの中に儀式モンスターまたは儀式魔法カードがあった場合、

その1枚を相手に見せて手札に加える事ができる。
確認したカードは好きな順番でデッキの上に戻す。

現れたのは鎖を持った半漁人のようなモンスターだ。

「リチュア・チェインの効果で、デッキを3枚めくる！」

才雅はめくったカードを確認する。

「……………」

才雅は何事も無かったかのように、3枚を好きな順番に入れ替えてデッキの上に戻す。

どうやら手札に加えられるカードは無かったようだ。

「さあバトルだ！リチュア・チェインで伏せモンスターを攻撃！」

リチュア・チェインが武器である鎖を、裏守備モンスター目掛け投げつける。

「共鳴虫が破壊される……が、効果発動！デッキからグラウンド・スパイダーを特殊召喚！」

ハウリング・インセクト

《共鳴虫/HoWling Insect》

効果モンスター 星3/地属性/昆虫族/攻1200/守1300

このカードが戦闘によって破壊され墓地に送られた時、デッキから攻撃力1500以下の昆虫族モンスター1体を自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。その後デッキをシャッフルする。

《グラウンド・スパイダー/Ground Spider》

効果モンスター

星4/地属性/昆虫族/攻0/守1500

このカードが自分フィールド上に表側守備表示で存在する場合に

相手がモンスターの召喚・特殊召喚に成功した時、そのモンスターを守備表示にする事ができる。この効果は1ターンに1度しか使用できない。

チェインの攻撃を受けたのはコオロギのようなモンスター。

共鳴虫は破壊される寸前に高い音を出していた。

「リクルーターだったか」

「それだけじゃない。「スパイダー・ウェブ」の効果で「リチュア・チェイン」を守備表示にする！」

攻撃を終えたチェインが蜘蛛の巣に絡め取られ、強制的に守備表示になってしまった。

そして、音に呼ばれて出て来たのは蜘蛛のモンスター。守備力はエリアルの攻撃力を上回っている。

「チェインは次の君のエンドフェイズまで、表示形式の変更が出来なくなる」

「チツ……ターンエンドだ」

する事が無くなり、才雅は仕方無くエンド宣言をした。

三原才雅

LP：8000 手札：5

駿河潤

LP：8000 手札：3

「僕のターン！……来たようだ」

引いたカードを見て笑みを零す潤。

「僕は手札から「スパイダー・スパイダー」を召喚する！」

《スパイダー・スパイダー / Spyder Spider》
効果モンスター

星4 / 地属性 / 昆虫族 / 攻1500 / 守1000

このカードが戦闘によって相手フィールド上に
守備表示で存在するモンスターを破壊した場合、
自分の墓地に存在するレベル4以下の
昆虫族モンスター1体を選択して特殊召喚する事ができる。

潤のカードから出て来たのはスパイのような装備を付けた蜘蛛のモンスター。

「バトル！スパイダー・スパイダーで、リチュア・チェインを攻撃
！」

スパイダー・スパイダーの口から吐かれた糸がチェインの体を貫く。
そしてスパイダー・スパイダーも先程のチェイン同様、蜘蛛の糸で
守備表示になった。

「更にスパイダー・スパイダーの効果発動！守備表示モンスターを
戦闘で破壊した時、墓地から昆虫族モンスターを蘇生する事が出来
る！」

「何っ!?!」

チェインが破壊された場所から共鳴虫が現れる。

「共鳴虫で、リチュア・エアリアルを攻撃！」

共鳴虫の体当たりでエリアルの華奢な体が吹き飛ばされてしまった。
その衝撃が才雅にもダメージを与える。

三原才雅

LP：8000 7800

「ぐはっ……!？」

そして共鳴虫も蜘蛛の糸で守備表示になる。

「くっ！エリアル……!」

「その程度か？ターンエンド」

三原才雅

LP：7800 手札：4

駿河潤

LP：8000 手札：3

「俺のターン！」

相手のフィールドには守備表示とはいえモンスターが3体。状況は
圧倒的に不利だ。

「憑依装着 エリアを召喚！」

《憑依装着（よこせ） - エリア / Familiar - Possessed -
Eria》

効果モンスター

星4 / 水属性 / 魔法使い族 / 攻1850 / 守1500

自分フィールド上の「水霊使いエリア」1体と他の水属性モンスター1体を墓地に送る事で、手札またはデッキから特殊召喚する事ができる。この方法で特殊召喚に成功した場合、以下の効果を得る。このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

才雅が出したのはエリアルとは服装が違うが、これまた江里香によく似た少女。

隣には人型の爬虫類モンスターを従わせている。

「エリアでスパイ……!?!」

才雅が攻撃宣言に移ろうとした時、驚くべき事が発生した。

エリアが、守備表示の蜘蛛が吐いた糸に絡め取られていたのだ。

「グラウンド・スパイダーの効果発動。お前が召喚したモンスターは守備表示になる」

エリアは苦しさで頬を紅潮させ、もがきながらも表示形式を変更させられてしまう。

「おおお……!」

「ちよつと才雅君!!しっかりしてよ!!」

「ハッ!」

その光景を乗り出すように眺めていた才雅だったが、江里香の怒鳴り声で我に帰る。

「よくもエリアをこんな目に……」

小さくガッツポーズをしながら言う才雅に説得力は無かった。

「このままターンエンドだ！」

攻撃出来なくなり、ターンエンドせざるを得なくなった。

三原才雅

LP：7800 手札：5

駿河潤

LP：8000 手札：3

「僕のターン！お前に見せてやろう……神を！」

潤が差し出した腕には、蜘蛛のような印が出来ていた。
更に、印に呼応するかのようにカードが光り出す。

「グランド・スパイダーと共鳴虫をリリース！」

2体のモンスターが光の玉となって空へ昇り、巨大な心臓のような物を形成する。

「我が運命の光に潜みし亡者達の魂よ！流転なるこの世界に暗黒の
真実を導くため、我に力を与えよ！現れよ！」地縛神 Uru！」

腕の印が放つ光が一層強くなり、心臓が光の柱となる。

「な、何だこの邪悪なオーラは……」

やがて光は消えたが、潤のフィールド上に新しいモンスターは見えなかった。

「何だ？失敗したのか……！？」

ふと、才雅は気付いた。

真上に何かいる。

血の様に赤い目が8つ、こちらを見ている。

それが蜘蛛の姿をした巨大なモンスターだと気付くのにそう時間は掛からなかった。

《地縛神^{どくわくしん} Uru^{ウル}/Earthbound Immortal U

《ru》

効果モンスター

星10/闇属性/昆虫族/攻3000/守3000

「地縛神」と名のついたモンスターはフィールド上に1体しか表側表示で存在できない。

フィールド上に表側表示でフィールド魔法カードが存在しない場合このカードを破壊する。

相手はこのカードを攻撃対象に選択する事はできない。

このカードは相手プレイヤーに直接攻撃する事ができる。

1ターンに1度、このカード以外の自分フィールド上に存在する

モンスター1体をリリースする事で、相手フィールド上に表側表示で存在する

モンスター1体を選択し、このターンのエンドフェイズ時までコントロールを得る。

「何なんだコイツは……」

規格外の巨大さに圧倒されそうになる才雅。

「これが地縛神さ。U r uの効果発動！」

潤の指示を受けると、なんとU r uは隣にいたスパイダー・スパイダーを補食してしまった。

「な、何だ!？」

「自分のモンスター1体をリリースする事で、相手のモンスターをエンドフェイズまで奪う！」

U r uの吐く糸で、エリアが潤のフィールドへ移されてしまう。

再び蜘蛛の糸塗れにされ、エリアの可愛らしい表情はすっかり曇っていた。

「エリアを攻撃表示に変更!バトルだ！」

今度は攻撃表示にされ、操り人形のように才雅と対峙させられてしまう。

「U r uとエリアでダイレクトアタック!ヘルスレッド!!」

U r uの糸と、エリアの杖から出る水の魔法が才雅を襲う。

「ぐあああああ!？」

三原才雅

LP:7800 4800 2950

「ターンエンド。エリアは返してやる」

攻撃を終え、エリアが才雅のフィールドに戻される。
しかし、今度はスパイダー・ウェブの効果で再三系に包まれてしま
った。

三原才雅

LP：2850 手札：5

駿河潤

LP：8000 手札：3

「……テメエはもう、許さねえ！俺のターン！」

自分の（彼女に似た）モンスターを弄ばれ、激昂する才雅。
ドロートしたカードは、「シャドウ・リチュア」という名のモンス
ターカード。

「来た！手札から永続魔法「昇華する魂」を発動！」

《昇華する魂 / Ascending Soul》
しょうか たましい

永続魔法

儀式モンスターが儀式召喚に成功した時、
その儀式召喚でリリースした自分の墓地に存在する
モンスター1体を選択して手札に加える事ができる。
この効果は1ターンに1度しか使用できない。

「行くぜ？儀式魔法「リチュアの儀水鏡」発動！手札から「シャド
ウ・リチュア」をリリースし、来い！」

《リチュアの儀水鏡ぎすいきやう / G i s h k i C e r e m o n i a l M i
r r o r 》

儀式魔法

「リチュア」と名のついた儀式モンスターの降臨に必要。
手札・自分フィールド上から、儀式召喚するモンスターと
同じレベルになるようにモンスターをリリースしなければならない。
また、墓地に存在するこのカードをデッキに戻す事で、
自分の墓地に存在する「リチュア」と名のついた儀式モンスター1
体を選択して手札に戻す。

《シャドウ・リチュア / G i s h k i S h a d o w 》
効果モンスター

星4 / 水属性 / 海竜族 / 攻1200 / 守1000

水属性の儀式モンスターを特殊召喚する場合、

このカード1枚で儀式召喚のためのリリースとして使用する事がで
きる。

また、手札からこのカードを捨てる事で、

自分のデッキから「リチュア」と名のついた儀式魔法カード1枚を
手札に加える。

フィールドに現れた独特な形の鏡から、強烈な水流が巻き起こる。

「イビリチュア・ソウルオーガ！

《イビリチュア・ソウルオーガ / E v i g i s h k i S o u l
O r g e 》

儀式・効果モンスター

星8 / 水属性 / 水族 / 攻2800 / 守2800

「リチュア」と名のついた儀式魔法カードにより降臨。

1ターンに1度、手札から「リチュア」と名のついたモンスター1

体を捨てる事で、
相手フィールド上に表側表示で存在するカード1枚を選択して持ち
主のデッキに戻す。

巻き起こる水流の中から目を光らせ、咆哮しながら姿を現したのは
シャドウ・リチュアに似た特徴を持つモンスターだった。

「昇華する魂の効果で、リリースしたシャドウを手札に加える！」
「才雅君、すごい！」

墓地からモンスターを回収し、手札の消費を最低限にする。
才雅の怒濤の連続コンボに息を呑むギャラリィ。

「へっ、まだまだ！魔法発動、「儀式の準備」！デッキからレベル
6以下の儀式モンスターを手札に加え、墓地の儀式魔法を手札に戻
す事が出来る！」

《儀式の準備 / Preparation of Rites》
通常魔法

自分のデッキからレベル7以下の儀式モンスター1体を手札に加え
る。

その後、自分の墓地から儀式魔法カード1枚を手札に加える事がで
きる。

「再びシャドウをリリース！現れる！」イビリチュア・マインドオ
ーガス」！

《イビリチュア・マインドオーガス / Evilishki Mind
d Augus》

儀式・効果モンスター

星6 / 水属性 / 水族 / 攻2500 / 守2000

「リチュア」と名のついた儀式魔法カードにより降臨。

このカードが儀式召喚に成功した時、

お互いの墓地に存在するカードを合計5枚まで選択し、持ち主のデッキに戻す。

次に儀式召喚されたのは、下半身に巨大な魚を融合したエアリアルのようなモンスター。

「マインドオーガスの効果で、お前の墓地の虫3体をデッキに戻す！」

マインドオーガスの杖から吹き出した水が潤のディスクを直撃し、墓地に眠っていた3枚の昆虫がデッキに戻される。

「チツ……」

「どんどん行くぜ！2体目のシャドウを手札から捨てることで効果発動！デッキから儀水鏡をサーチ！」

シャドウを墓地へ送り、2枚目の儀式魔法を手札に加える才雅。

「畏発動！「儀水鏡の瞑想術」！手札のリチュアと名の付いた儀式魔法を見せる事で、墓地のリチュア2体を手札に加える！俺が加えるのはエアリアルとシャドウ！」

《儀水鏡の瞑想術》

通常罫

手札の儀式魔法カード1枚を相手に見せ、

自分の墓地に存在する「リチュア」と名のついたモンスター2体を選択して発動する。

選択した墓地のモンスターを手札に戻す。

またもや墓地からカードを加える。才雅の手札は現在3枚。ところが、潤はまだ余裕そうに笑っていた。

「ククク……いくらモンスターを並べた所で、地縛神の圧倒的な攻撃力には勝てまい！万が一勝てたとしても、地縛神を攻撃対象にする事は出来ない！」

地縛神特有の効果の1つである。

地縛神が存在する限り、相手は地縛神とプレイヤーに攻撃する事が出来なくなるのだ。

「ソイツはどうかな？」

だが、才雅にも考えがあった。

「ソウルオーガの効果！手札のリチュアを1枚捨てる事で、相手フィールド上の表側表示のカードをデッキに戻す！」

「何っ!？」

ソウルオーガは自在に水流を操り、その場を破壊し尽くした。

「シャドウを捨て、スパイダー・ウェブをバウンス！」

蜘蛛の巣が水で流されていく。

エリアの体にまわり付いていた蜘蛛の糸も、すっかり洗い落とされていた。

「フィールドが無くなった事で、地縛神は自壊する」

「バカな……僕の地縛神が……」

土地の力を失った巨大な蜘蛛は、咆哮しながら崩れ去っていった。

「そして、エリアルを通常召喚！エリアを攻撃表示に変更！」

フィールドに再び降り立ったエリアル、そして元気を取り戻したエリアが並び立つ。

「覚悟しろよ、虫野郎。全員でダイレクトアタックだ！」

「うああああああつ！！？」

4体のモンスターの連続攻撃を受け、潤のライフは瞬間に0になつて行つた。

駿河潤

LP：8000 5200 2700 1700 -150

三原才雅 WIN！

デュエル終了と共にソリッドビジョンが消え、普段の公園の光景が戻る。

唯一違うのは敗者となった潤が倒れ、勝利を納めた才雅がそれを見下ろす形となっていることだ。

「やったー！才雅君が勝つたー！」

「うおっ！？」

感極まった江里香が才雅に抱き付く。

勢い余り倒れそうになるが、何とか留まり抱き付かれた感触を楽し

む才雅。

「そんなバカな……」

潤はその場に座り込んだまま、自分の敗北に信じられない様子だった。

「約束だ。レアカードを返せ」

そんな潤に、才雅は手を差し出す。

「……チツ、ほら」

敗者に言葉は許されない。

潤は大人しくレアカードの入ったケースを渡した。その中には才雅の依頼者のレアカードもしっかり入っていた。

「……確かに」

「フンツ、覚えておけよ。いずれ貴様に復讐してやる！蜘蛛は狙った獲物は逃がさない！」

才雅に捨て台詞を吐き、潤はその場を後にした。

「……まーた好敵手を作っちまったか？」

「かもね」

顔を見合わせ、苦笑する才雅と江里香だった。

「まさか、アイツがな……」

小さく呟いた潤の言葉に誰も気が付かない。

だが潤は見ていた。

最後の才雅のコンボの時に、才雅の右手に青く光る印が浮かんでいた事に。

第1話「その男、リチュア使い」(後書き)

次回予告

才雅「今回も快勝だったぜ〜！」

界坐「ライフ半分以上減らされた癖にか？」

才雅「うっ、うるせえよ！」

界坐「そんな事より次回は俺のデュエルだ。何やら不穏な気配がする……」

才雅「蜘蛛の次は……蛇！？何でこの街のデュエリストはそんなデツキばっかなんだ!？」

界坐「次回、遊戯王 決闘戦記315 第2話「ラヴァル、爆発せよ」」

才雅「デュエルスタートだ！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5503ba/>

遊 戯 王 決闘戦記315

2012年1月15日00時45分発行